



# スクールレポート

SCHOOL REPORT 83

学校生活の  
一コマを紹介

●学校教育課 ☎ 23局3679

今回は、小・中学校での「夢の教室」と「夢Wokerリンク」の様子をご紹介します。田原市では、子どもたちに、将来、「社会の中での役割を果たし、自分らしい生き方を実現できる人になってほしい」と願い、小・中学校でさまざまな取り組みを行っています。

## 「夢の教室」

### 夢を持ち続け、努力して欲しい

「夢の教室」は、「夢を持ち、困難を乗り越えていくことの大切さ」や「仲間と協力し、思いやりの心を持つことの大切さ」を伝えたいという思いから、日本サッカー協会が行っている活動です。元プロスポーツ選手などが学校を訪れ、授業を行います。

本年度、田原市では、小学校5年生・中学校2年生の全学級で実施します。

6月9日(火)、元U20サッカー日本代表で、JリーグでFWとして活躍した安永聡太郎さんが、福江小学校を訪れました。安永さんは、自分の経験をもとに、「つらいときこそ、我慢して続けることが大事」「自分の可能性を見つけてくれる人が必ずいる。人との出会いを大切にしよう」「夢を実現することよりも、夢を持ち続け、それに向かって努力することが素晴らしいことなんだ」と、熱く語りました。

子どもたちは、授業の最後に、自分の夢や目標を書き、みんなの前で発表しました。安永さんから「素晴らしい夢だね。がんばって」と言われると、とてもうれしそうでした。



▲努力することの大切さを語る安永さん



▲みんなの前で、夢を発表する児童



▲荒木さんの話を真剣に聴く生徒たち

## 「夢Wokerリンク」

### 働くことは苦労もあるけれど、素晴らしいこと

「夢Workerリンク」は、子どもたちに「働くことの意義やすばらしさ」を伝えるため、地元で働くさまざまな職種の人が学校を訪れ、「仕事での苦労や工夫、仕事にかける思い」などを語る取り組みです。昨年からは、中学校を中心に実施しています。

6月5日(金)、福江中学校には、地域活性化の取り組みを行っている8名の方が訪れ、2年生を6グループに分けて、授業を行いました。

農業を営み、一般社団法人の代表も務める荒木通仁さん。田原市の農業の現状や課題を話した上で、「農・商・工業を連携させることで田原市の産業を発展させたい、という願いで今の仕事をやっている」と語りました。「仕事をしていてうれしいことは、人と出会い、つながると、自分にはないアイデアをもらえること」と話す中、生徒たちは真剣に聴いていました。

生徒たちは、「農産物を加工して売ること、農業の課題を解決しようとしているところがすごい」「自分の家も農家だけれど、農業はもっと簡単なものかと思っていた」といった感想を述べ、講師の方の働くことや地域活性化にかける思いを感じることができたようでした。

